

POSITION関数

フィールドの位置（テーブルの左側からの列の位置）を取得する

◇機能

指定されたフィールドがテーブルの左側から何列目に位置しているかを数値で返します。

スクリプトでPOSITION関数を使用すると、《新規フィールド追加》コマンドで新規フィールドを作成した場合などに、そのフィールドを何列目に配置するかを指定することができます。

◇構文

POSITION(<フィールド>)

	引数	入力内容
1	フィールド	位置を取得したいフィールドを指定します。 省略可。省略した場合（フィールドを指定しない場合）は、テーブル全体の列数（フィールド数）を取得します。

POSITION

POSITION(<フィールド>)

フィールド

指定したフィールドの前から数えた順番を返します。

①POSITION() : 戻り値 ⇒ テーブルのフィールド総数（数値型）

②POSITION(<フィールド名>) : 戻り値 ⇒ 指定したフィールドの前から数えた順番（数値型）

（例）番号,日付,金額,備考

①POSITION() : 戻り値 ⇒ 4

②POSITION([番号]) : 戻り値 ⇒ 1

②POSITION([金額]) : 戻り値 ⇒ 3

OK

キャンセル

◇戻り値のデータ型

数値型

0

© 2025 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇処理の例

下のテーブルでPOSITION関数を使用した場合に取得される値の例です。

売上番号	商品No	単価	数量
30001	101	100	4
30002	102	50	3
30003	103	500	2

式	戻り値
POSITION()	4
POSITION([売上番号])	1
POSITION([単価])	3

◇使用例

● 新規追加したフィールドを特定のフィールドの後ろに配置する

(例) 下のテーブルに、《加工》-《新規フィールド追加》コマンドで、「販売金額」フィールドを作成します。

売上番号	商品No	単価	数量	販売金額
30001	101	100	4	400
30002	102	50	3	150
30003	103	500	2	1,000

以下のログが記録されます。

※コマンド実行時に、テーブル上で列を選択していた場合は、その列の後ろにフィールドが作成されます。

選択していない場合は、最終列となります。このログは、最終列に作成された例です。

DEFINE FIELD [販売金額] N PIC "True" POSITION 5 COMPUTED
[単価] * [数量]

この「POSITION」は、POSITION関数ではなく、
列の位置を示す書式です。POSITION 列の位置

「販売金額」を「商品No」の後ろに配置したい場合は、以下のようなスクリプトにします。

DEFINE FIELD [販売金額] N PIC "True" POSITION POSITION([商品No])+1 COMPUTED
[単価] * [数量]

書式のPOSITIONの列の位置を記述する箇所に、POSITION関数を使用しています。

POSITION POSITION([商品No])+1

↓
POSITION 2+1

↓
POSITION 3

POSITION([商品No])で、
[商品No]フィールドの列の位置である
「2」を取得します。

売上番号	商品No	販売金額	単価	数量
30001	101	400	100	4
30002	102	150	50	3
30003	103	1,000	500	2

スクリプトを実行すると、
[販売金額]フィールドが
3列目になります。

● 新規追加したフィールドを常に最終列に配置する

DEFINE FIELD [販売金額] N PIC "True" POSITION POSITION()+1 COMPUTED
[単価] * [数量]

POSITION POSITION()+1

↓
POSITION 4+1

↓
POSITION 5

POSITION()で、
テーブルの総列数「4」を取得します。

売上番号	商品No	単価	数量	販売金額
30001	101	100	4	400
30002	102	50	3	150
30003	103	500	2	1,000

スクリプトを実行すると、
[販売金額]フィールドが
5列目（最終例）になります。